



アリは仲間とどうやって話をするの

さわって話す

アリどうしが会おうと、おたがいに、長い触角で相手の体をつついたり、触角と触角をふれあっています。これが、声が出せないアリの、仲間とのおしゃべりになります。

において仲間かどうかチェック

さわったとき、相手のにおいもチェックしています。同じ巣の仲間は、同じにおいがします。そのにおいて、自分の仲間かどうかを、見分けているのです。クロナガアリなどは、巣の入り口に門番役のアリがいて、触角でにおいや身体検査をし、同じ仲間でなければ、巣に入れさせません。同じ種類のアリどうしても、巣がちがえば、においもちがいで、仲間ではないので、えさの取り合いで、とっくみあいのけんかをするときもあります。

アリの行列は、においをたどってできる

ふつう、アリがおいしいえさを見つけたとき、そのアリの歩いた所に、アリが残したにおいがしばらく残っています。ほかのアリは、そのにおいを触角でたどって、えさの所へ行きます。それがくり返されて、アリの行列ができます。

クロナガアリは、においではなく、太陽の位置を目印にして、えさの草の実と巣の間を、行ったりきたりします。えさを見つけたアリは、仲間にその場所を教えるためには、仲間の体をくわえて引っぱっていきます。

(監修・中山 周平)

